

乗鞍岳の宿泊施設

標高の高いところで眠り、雲海から昇る朝日を見るために目覚めるという体験は、通常、恐れ知らずのハイカーだけの特権です。しかし、乗鞍岳は 3,000m 級の山としては他に類を見ないアクセスの良さで、乗鞍バスターミナル（畳平）から歩いてすぐの場所に素晴らしい宿泊施設があります。気軽な観光客から熟練したアルピニストまで、誰もが安心して快適に宿泊し、目覚めたら一日中、山遊びを楽しむことができます。

山頂付近には 3 つの宿泊施設があります。乗鞍白雲荘、乗鞍銀嶺荘、そして肩ノ小屋です。いずれも 6 月中旬頃から 10 月中旬頃までの夏場に営業していますが、雪降る冬は休業となります。白雲荘と銀嶺荘は、畳平の駐車場に位置し、一般的な宿泊施設のような快適さを求める観光客やハイカーの両方に対応しています。この 2 つの施設には、かつては標高の高い場所では考えられなかったようなお風呂も用意されています。ここでは水は貴重なもので、両施設ともに雨水や雪解け水、近くの不消ヶ池の水を利用しています。

肩ノ小屋は、畳平の駐車場から南に 30 分ほど歩いたところにあります。この地域の多くの山小屋と同様に、肩ノ小屋は、数日間のハイキングをするハイカーに、簡素なシェルターと心のこもった食事を提供することを目的としています。乗鞍岳の最高峰である剣ヶ峰（3,026m）には他の宿泊施設よりも近く、真夏でも雪が残っておりスキーやスノーボードができる大雪渓にも隣接しています。

乗鞍岳の各宿泊施設では、快適な設備とおいしい食事に加え、地元の知恵と経験が生かされています。スタッフは、天気やハイキングコース、山の動植物の見分け方などをアドバイスしてくれます。また、軽度の医療緊急事態や高山病に対処するための設備も備えています。

乗鞍岳の宿泊には長い歴史があります。円空（1632-1695）や木喰（1718-1810）などの修行僧（山伏）が修験の旅として乗鞍岳を訪れ、小屋や岩窟に宿泊していました。乗鞍岳の第二の高峰である大日岳（3,014m）の頂上付近に残る小さな洞窟に、木喰が住んでいたと言われています。